

太陽エネルギーデザイン研究会総会



太陽エネルギーデザイン研究会の第4回通常総会が7月28日、東京・神田駿河台の日本大学理工学部1号館で開かれ、新会長に大野二郎氏(日本設計)、新副会長に渡辺富雄(日本大学)、石井久史(LIXIL)の2氏が就任した。伊澤紳会長(日本大学)は名誉会長に就いた。

新会長に大野二郎氏

「ZEB・ZEHへの道筋」で講演も

田辺新一早大創造理工学部建築学科教授が「ZEB・ZEHへの道筋」、太陽エネルギー学会会長の太和田善久大阪大大学院工学研究科招へい教授が「太陽光発電システムに求められる長期安定性と課題」と題してそれぞれ講演した。

この中で田辺氏は、「省エネは我慢するものではなく、知的生産性が高く、よく働けることが目的になればならない」と指摘。加えてZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)に関する国内外の動向などを紹介した。太和田氏は再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度(FIT)導入後の電力事情や太陽光発電システムの品質などについて解説した。

同研究会は10年9月に設立され、太陽エネルギーと建築デザインを融合させる新技術の開発・普及などに向けた活動を展開している。